



かかわり

校長 鈴木 彰

新しい年度が始まって2か月が過ぎました。1年生はあっという間に小学校生活に慣れたようで、休み時間の仲のよい会話が校舎内に響いています。新しい仲間づくりの中で新しい自分づくりをしてほしいと期待しています。



学校生活は、いうまでもなく「集団生活」です。同じ年ごろの仲間といることで、楽しい出来事があり、けんかがあり、前向きな競い合いがあります。そういった多様なかかわりがあるからこそ、どの子もあたたかく、優しく、力強く成長していきます。

子どもたちは、学校の集団の中では・・・

- 1 いつも自分の都合だけで事が運ぶのではないということ。
- 2 相手のことも考えた行動でなければ、力を寄せ合えないこと。
- 3 集団生活の中では「やりたいこと」ばかりでなく「やらなければならないこと」がたくさんあって、どれも大切であること。
- 4 失敗はあるのだということ。いつまでも失敗にとらわれていることが一番の失敗であり、失敗は自分と仲間を取り返して、すぐに前向きな次の一步を踏み出すことが大切であること。
- 5 そういった生活の中では、これまでにない感動や喜びを得ることに気づくこと。その価値の大きさにまた感動すること。

を実感していることでしょう。仲間との集団行動の中で「協力することの大切さ」や「責任の重さ」、「前向きな態度」など、たくさんのことを学び、身につけてほしいと思います。

さて、6年生が、5月18日と19日に日光修学旅行に行ってきました。宿泊学習は、大切な集団生活の場です。6年生の子どもたちにとっては、修学旅行のめあて「深めよう 見つけよう 気づこう」のとおり、たくさんの気づきがあり、たくさんの発見があり、たくさんの深まりを感じた2日間でした。

朝も昼も夜も、寝食を共にした2日間では、どの子も、周囲の友達とのかかわりの中で、楽しいことも、うれしいことも、小さなけんかも、それぞれあったはずですが、それはどれもマイナスではなく、その子が成長するプラスの出来事となっていきます。

自分の成長に気づくのは「その瞬間」であることもあるし、「翌朝目が覚めたとき」であったり「大人になってから」であったりすることもあるでしょう。それがいつであるかは問題でなく、人とかかわりは必ず確かな育ちにつながる大切な経験であることを、私たちは知っています。他人とかかわれなかったコロナ禍の異常から日常へと戻る今年、子どもたちにたくさんのかかわりの場をつくってあげたいと思います。

子どもたちが、豊かなかかわりの中でいきいきと成長する姿をまぶしく見つめることのできる毎日が、明日からもまたずっと続いてほしいと願っています。